

まいづる野原^{の はら}漁村交流推進協議会

連絡先

住 所	京都府舞鶴市字野原 5 7 番地の 6
電話 番号	0 7 7 3 - 6 7 - 0 7 0 6
FAX 番号	0 7 7 3 - 6 7 - 0 5 0 0

受入体制

◆構成メンバー

- (1) 事務局（漁協）：連絡、問い合わせ、企画、回答、手配
- (2) 野原観光協会（民宿組合）：連絡、手配
- (3) 構成員（民宿を営む組合員 30戸余り）：受入れ

受入学校名

京都府大山崎町立大山崎小学校

当該小学校の受け入れの経過

(1) 小学校との最初の接点（きっかけ）

京都府教育委員会主催の小学校長会の席で、舞鶴出身の校長先生が舞鶴野原の漁村に行ってみたらとの声かけにより、大山崎小学校の校長先生から漁協に電話をいただいたのがきっかけとなった。

(2) その後の小学校への対応

3月に大山崎小学校校長から下見の連絡があり、5月に受入れの下見と体験内容等について打合せを行った。

当日のメンバーは

- ①大山崎小学校（校長他2名）
- ②漁協（事務局1名）
- ③野原観光協会会長
- ④野原観光協会 代表者2名

電話やファックスでの確認ややり取りを適切に行い、極力早い回答を心がけた。

小学校が当地を選定した理由

漁業体験が可能で、野原の豊かな自然とすばらしい海の環境があり、受入れの態勢が整っていたことで判断された結果、選定されたと聞いている。

受入地域への効果

民宿営業者（漁協組合員）に体験の受入れのノウハウが勉強できた。

つまり、30年来臨海学校の受け入れの経験があるが、学校の先生が主導で実施しているが、漁業体験など様々な体験を目的にした学校を受入れたのは初めてであったためである。

さらに、子ども達は遊びに来るのでなく学校行事として来るので、交流の大切さについて地域にも理解が深まった。

受け入れた小学校との関係維持への対応

大山崎小学校には、2年間当地野原に来てもらったので、また次の機会に来てもらえるよう学校に情報を流す努力をする。

新たな情報があれば本校に情報提供する考えである。